

二つのすいせん文を比かくして読もう（読むこと⑤）

年

組

番 氏名

◇ 青木さんの学級では、宮沢賢治が書いた「雪わたり」を読んだあと、それに関連する本を読み、読み方のすいせん文を書くことにしました。次の文章は、「青木さんが書いたすいせん文」と【田中さんが書いたすいせん文】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【青木さんが書いたすいせん文】

わたしは、「雪わたり」を読んで、きつねと人間とのかかわりについて興味をもちました。そこで、きつねと人間のかかわりが題材の本を集めて読みました。その中で、みなさんにしようかいたしたい本が新美南吉の「手ぶくろを買いに」です。

「雪わたり」では、きつねが人間の子もたちに、「きつねは、人間に悪さやいたすずらをする動物だと決めつけられてきた」と伝えることから物語が始まります。「手ぶくろを買いに」では、母きつねが子きつねに、「人間は、きつねに手ぶくろを売ってくれないばかりか、きつねをつかまえておりに入れてしまう、こわいものだ」と伝えます。しかし、手ぶくろを買いに町へ出かけた子きつねは、人間のやさしさにふれます。最後の母きつねの言葉「ほんとうに人間はいいものかしら」が印象的です。

どちらの物語も、きつねと人間は、初めはお互いをよく思っていないのですが、最後には心が通じ合う場面があり、心が温まる物語です。

きつねと人間のかかわりを題材にした本はたくさんあり、昔からきつねと人間は親密な関係だったということがわかりました。また、同じ題材の作品を読むことで、にている点やちがう点と比較しながら読むことができ、読書の楽しみ方が増えました。

みなさんは、物語のテーマや題材に注目して本を読んだことがありますか。そのような経験がない人は、ぜひこの読み方をおすすめします。物語に書かれているテーマや題材について、知識を増やしたり、深く考えたりすることができるとは思いますが、

【田中さんが書いたすいせん文】

みなさんは、物語の作者に注目して本を読んだことがありますか。そのような読み方をしたことはない人に、同じ作者の作品をいろいろ読むことをおすすめします。

わたしは、「雪わたり」を読んで、げんそう幻想の世界の入口の表現の仕方みかよくに魅力を感じました。この魅力にひきつけられ、他の宮沢賢治の作品では、どのように表現しているのかが気になり、宮沢賢治の作品をいくつか読みました。その中で特に心に残ったのは「注文の多い料理店」です。同じ作者の本を読むことでお気に入りの作品に出合うことができました。

「雪わたり」では、「お月様は空に高く上り、森は青白い煙に包まれています」という一文が幻

想の世界（きつねの幻灯会）への入口になっていると思いました。「注文の多い料理店」は、東京からやってきたハンターが、「西洋料理店 山猫軒」で、猫に食べられそうになる、という話です。この物語では、「風がどうと吹いてきて、草はざわざわ、木の葉はかさかさ、木はごんごんと鳴りました」という一文が幻想の世界（山猫軒）への入口になっていることに気づきました。どちらの作品も、宮沢賢治の思い（信じる心を忘れてはいけない。欲張りすぎてはいけない。）が込められているように思います。

その他、宮沢賢治の作品をいくつか読んでみると、声や音、また様子をリズムミカルなカタカナ言葉で表わした表現が多いことにも気づきました。

みなさんにも、興味をもった作者の作品をいろいろ読んでほしいと思います。作者独特の表現やしかけのおもしろさに気づいたり、作品にこめられた作者の思いを深く考えたりすることができそうですよ。

問一 中村さんは、二人のすいせん文を比べて読み、わかったことをノートにまとめました。【ノート】の **ア** ・ **イ** の中に入るふさわしい内容を、本文中の言葉を使って書きましよう。

【ノート】

田中さんが書いたすいせん文	青木さんが書いたすいせん文	
宮沢賢治作 「注文の多い料理店」	新美南吉作 「手ぶくろを買いに」	どのような本を紹介しているか。
物語の作者に注目して、本を読む読み方	ア	どのような読み方をすすめているか。
○同じ作者の作品を読むことで、お気に入りの作品に出会うことができるから。	○同じ題材の作品を読むことで、にている点やちがう点を比べながら読むことができるから。	すすめる理由
イ	イ	

答え
ア

読み方

答え
イ

問二 中村さんは、二人のすいせん文を比べて読み、二人の読み方にはちがいがあ
ることに気づきました。あなたなら、二人のすいせん文のどちらの読み方をしたい
と思いますか。どちらかを選び、選んだ理由を四十字以内にまとめて書きましよう。

答え

--

さんの読み方をしてみたいです。その理由は、

からです。

【解答と解説】

問一 中村さんは、二人のすいせん文を比べて読み、わかったことをノートにまとめました。【ノート】の ア ・ イ の中に入るふさわしい内容を、本文中の言葉を使って書きましよう。

■解答例

ア 物語のテーマや題材に注目して本を読む 読み方

イ

作者独特の表現やしかけのおもしろさに気づいたり、作品にこめられた作者の思いを深く考えたりすることができる

■解説

アは、青木さんのすいせん文の「みなさんは、物語のテーマや題材に注目して本を読んだことがありますか。そのような経験がない人は、ぜひこの読み方をおすすめします。」の二文に着目し、内容をまとめて書くことよいです。

イは、田中さんのすいせん文の中の、「作者独特の表現やしかけのおもしろさに気づいたり、作品にこめられた作者の思いを深く考えたりすることができまよう。」と書いてある部分に着目ましよう。

問二 中村さんは、二人のすいせん文を比べて読み、二人の読み方にはちがいがあることに気づきました。あなたなら、二人のすいせん文のどちらの読み方をしたいと思いますか。どちらかを選び、あとの条件に合わせて、選んだ理由を書きましよう。

■解答例

青木さん

の読み方をしてみたいです。その理由は、

同じ題材の作品をいくつか読み、にている点やちがう点を比べながら読んでみたい(三十七文字)

からです。

例

物語に書かれているテーマや題材について知識を増やしたり、深く考えたりしたい(三十七文字)

からです。

例

私は犬が好きなので、犬が冒険したり活やくしたりする物語をいろいろ読みたい(三十六文字)

からです。

■解答例

田中さん

の読み方をしてみたいです。その理由は、

好きな作者の作品をいくつか読み、その中からお気に入りの作品に出会いたい(三十四文字)

からです。

例

作者独特の表現やしかりに気づいたり、作品にこめられた思いを深く考えたりしたい(三十八文字)

からです。

例

椋鳩十の作品が好きなので、もっといろいろな作品を読んでお気に入りを見つけたい(三十八文字)

からです。

■解説

青木さんの読み方か、田中さんの読み方か、どちらか選り、理由と組み合わせで、限られた字数の中でまとめて書いてあれば正解です。ただし、組み合わせがちがっている場合は、不正解です。